

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 地域情報学研究科 地域情報学専攻（M）

【教育課程等】

1. 「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」の「⑤教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件」の「オ 履修モデル」において、異なる6つの分野ごとに履修モデルが例示され、それぞれの人材育成の観点から、習得すべき能力に対応した授業科目について説明されている。同時に、「本学情報学部の3つのトラック＝人間・社会情報学、情報通信技術、データサイエンス＝がカバーする領域」ごとの履修モデルの考え方を示すとともに、「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の「15 履修モデル図」において、これらの領域に対応した3つのモデル図を示しているものと見受けられるが、3つのモデル図がそれぞれどの領域を示したもののなのかの記載や説明がなく、どの領域のモデル図であるかを認識できないことに加えて、その内容も、科目の区分及び修士論文又はプロジェクト報告書といった修了要件に係る成果物の記載にとどまっていることから、「履修モデル」として必要な情報が示されておらず、学生が目指す人材を踏まえて何をどのように学び・身に付ける必要があるのかを具体的に読み取ることができる資料とはなっていない。また、3つの「履修モデル図」に示された「リメディアル」について説明されておらず、3つの領域における教育内容との関係性も判然としない。さらに、3つの「履修モデル図」と6つの分野ごとに例示された「履修モデル」との関係性も不明確であることから、これらの点を踏まえて、3つの「履修モデル図」ごとの対応する養成する人材像や履修すべき授業科目を明確に示すとともに、3つの「履修モデル図」と6つの分野ごとに例示された「履修モデル」との関係性を明らかにしたうえで、養成する人材像と3つのポリシーと整合した教育課程が編成されていることを説明し、必要に応じて関係する記載について適切に改めること。（改善事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

【学生確保の見通し・人材需要の社会的動向】

2. 「学生の確保の見通し等を記載した書類」の（1）エ「学生確保の見通し」において、本学の情報学部及び地域経営学部の2、3年生に対するアンケート調査の結果、本研究科に「進学を希望する」及び「進学を検討する」と回答した者が、3年生は22名、2年生が18名いることを示した上で、進学に前向きな意向を示す者が一定数いることをもって「進学者が安定的に入学する」と説明されている。しかしながら、明確な進学の意味を示した者と考えられる「進学を希望する」と回答した者は、3年生が10名、2年生が4名にとどまっていることに加え、「進学を検討する」と回答した者のうち何名が「進学を希望する」と同程度の見込みとして扱うことができるのかについて

での客観的な根拠に基づく合理的な説明は見受けられない。また、提携校である舞鶴工業高等専門学校での説明機会を設けること等によって、入学定員の 20 名を充足できる見込みがあると説明されているが、具体的に何名が先述のアンケート調査における「進学を希望する」と回答した者と同程度の見込みとして扱うことができるのかについて客観的な根拠に基づく合理的な説明は見受けられない。これらのことから、本研究科の入学定員である 20 名を安定的に満たすことができるとは判断できない。このため、入学定員の設定根拠及び長期的かつ安定的に学生を確保する見込みがあることについて、他大学等からの進学に関する調査の実施やその結果についての適切な分析などを含めて、客観的な根拠と適切な分析に基づき、改めて明確に説明すること。(是正事項)・・・・・・・・・・18

- ※ なお、この審査意見への対応を記載した書類の中では、設置の趣旨等を記載した書類で使用されている資料については、修正を新旧の資料を両方掲載し、資料番号も設置の趣旨等を記載した書類で使用されている番号を記載している。

(改善事項) 地域情報学研究科 地域情報学専攻 (M)

【教育課程等の概要】

1. 「設置の趣旨等を記載した書類 (本文)」の「⑤教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件」の「オ 履修モデル」において、異なる6つの分野ごとに履修モデルが例示され、それぞれの人材育成の観点から、習得すべき能力に対応した授業科目について説明されている。同時に、「本学情報学部の3つのトラック=人間・社会情報学、情報通信技術、データサイエンス=がカバーする領域」ごとの履修モデルの考え方を示すとともに、「設置の趣旨等を記載した書類 (資料)」の「15 履修モデル図」において、これらの領域に対応した3つのモデル図を示しているものと見受けられるが、3つのモデル図がそれぞれどの領域を示したもののかの記載や説明がなく、どの領域のモデル図であるかを認識できないことに加えて、その内容も、科目の区分及び修士論文又はプロジェクト報告書といった修了要件に係る成果物の記載にとどまっていることから、「履修モデル」として必要な情報が示されておらず、学生が目指す人材を踏まえて何をどのように学び・身に付ける必要があるのかを具体的に読み取ることができる資料とはなっていない。また、3つの「履修モデル図」に示された「リメディアル」について説明されておらず、3つの領域における教育内容との関係性も判然としない。さらに、3つの「履修モデル図」と6つの分野ごとに例示された「履修モデル」との関係性も不明確であることから、これらの点を踏まえて、3つの「履修モデル図」ごとの対応する養成する人材像や履修すべき授業科目を明確に示すとともに、3つの「履修モデル図」と6つの分野ごとに例示された「履修モデル」との関係性を明らかにしたうえで、養成する人材像と3つのポリシーと整合した教育課程が編成されていることを説明し、必要に応じて関係する記載について適切に改めること。

(対応)

改善事項に示された「設置の趣旨等を記載した書類 (資料)」の「15 履修モデル図」の不備を改め、新規に「設置の趣旨等を記載した書類 (資料)」の「15 履修モデル図」として7ページからなる資料を再構成し、履修モデルごとに研究課題の具体例とその領域、履修すべき科目とそこの科目の履修における学びのポイントを示すとともに、研究・プロジェクト科目の指導体制を明らかになるように示した。このことから、これらの資料は、大学院生が、その目指す人材像を踏まえて、2年間の課程でどのようなテーマのもとで、何をどのように学ぶか、そこで修得すべきポイントは何かを示唆するものとなっている。これらは、例示であり、本設置計画では、1人ずつの入学生に対して、具体的な研究計画とあわせて、資料15に示すような履修計画をたて、それらの計画に従って学修を進めていく計画である。

また、情報系以外からの入学者が期待されるコースにおいては、どのようなリメディアル科目が準備されているかについても記載した (資料15-1, 15-2, 15-3)。情報技術の深化

を目指すコースでは、本学情報学部とのトラックとの関係を図で示すこととした（資料 15-4, 15-5, 15-6, 15-7）。なお、情報学部におけるトラックは、学部の専門科目を履修する上でのゆるやかな境界を与えるものであり、いわゆるコース制におけるコースとは性格を異にするものであるため、資料では、どのトラックを主に履修すると、どの人材分野につながっていくかについての例示にとどめている。

この資料の再構成を踏まえて、設置等の趣旨（本文）の⑤ 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件等について、以下に示す修正および新規追加を行った。

（新旧対照表）

新	旧
<p>(15 ページ)</p> <p>オ 履修モデル</p> <p>(略)</p> <p>地域 DX 分野、社会福祉分野、<u>防災分野、医療分野</u>、数理基盤分野、</p> <p>(略)</p> <p>(15 ページ)</p> <p>*地域 DX 分野</p> <p>(略)</p> <p>ベンチャー・アントレプレナーシップ論、<u>社会科学系科目の経営学特論と</u></p> <p>(略)</p> <p>また、質的調査と量的調査に加え<u>フィールド調査のメソッドを講述する実践的社会調査法と人を対象にしたシステム設計と行動分析にかかわる人間情報技術特論は</u>、研究分野の</p> <p>(略)</p> <p>教育および研究指導を行う。<u>なお、本学の地域経営学など非情報系の学科出身の学生には、大学院レベルの情報系の専門科目の履修のための準備が必要であると考えられ、アルゴリズム論や情報システムなどの本学の情報学部の授業科目が履修できるように配慮する。</u></p>	<p>(15 ページ)</p> <p>オ 履修モデル</p> <p>(略)</p> <p>地域 DX 分野、社会福祉分野、<u>地域防災分野、医療支援分野</u>、数理基盤分野、</p> <p>(略)</p> <p>(16 ページ)</p> <p>*地域 DX 人材分野</p> <p>(略)</p> <p>ベンチャー・アントレプレナーシップ論、<u>経営学特論と</u></p> <p>(略)</p> <p>また、質的調査と量的調査に加え<u>フィールド調査のメソッドを講述する実践的社会調査法と人を対象にした計測とデータ処理に関わる感性情報データ処理特論は</u>、研究分野の</p> <p>(略)</p> <p>教育および研究指導を行う。</p>

地域 DX 分野における履修科目の一例（履修モデル）を表1に示す。この分野では、地域社会のさまざまな局面におけるデジタル化を推進するプロジェクトに参画し、その成果をプロジェクト報告書としてまとめることが期待され、一例として、京都府北部地域の観光振興におけるデジタル化を推進する海の京都 DMO と協働して、公社が手掛ける事業に大学院生が参画し観光 DX 人材育成を図っていくことなどが想定されている（資料 15-1：履修モデル説明図 地域 DX 分野の履修モデル（修士（学術）））。

（16 ページ）

表 1. 地域 DX 分野の履修モデル（修士（学術）コースの例）

（表 1 の修正内容については後掲）

（略）

（16 ページ）

***社会福祉分野**

（略）

情報学科目に配置される人間情報技術特論の履修を通じて

（略）

介護現場でインターンシップを経験することも含めてプロジェクトを推進することになる。このプロジェクトを通じた活動における履修科目の一例（履修モデル）を表2に示す。人と情報技術との関係性およびデータ収集に関する講義を履修したのち、座学で地域福祉を学びつつ、現場におけるインターンシップを経験することで、プロジェクト活動の意義や実際の課題点をより詳しく学ぶ。具体的なプロジェクトとしては、ロボットや人工知能を活用した介護支援などが考えられる。このようなプロジェ

（16 ページ）

表 1. 地域 DX 人材分野の履修モデル

（表 1 の内容を修正）

（17 ページ）

***社会福祉分野**

（略）

情報学科目に配置される人間情報技術特論とマルチモーダルインタラクション特論の履修を通じて

（略）

介護現場でのプロジェクトを推進することになる。

クト活動に学生が参画する際に、非常系分野の出身者は、情報系専門科目の履修準備として、アルゴリズム論やヒューマンインターフェースなどの本学情報学部の専門科目の履修ができるように配慮を行う。2年次には情報技術を活用した現場でのサービスを実践的に推進していき、その成果をプロジェクト報告書としてまとめていく。(資料15-2：履修モデル説明図 社会福祉分野の履修モデル(修士(学術)))。

(略)

(17 ページ)

表2. 社会福祉分野の履修モデル(修士(学術) コースの例)

(表2の修正内容については後掲)

(略)

(18 ページ)

***防災分野**

(略)

その成果をプロジェクト報告書にまとめる。

(略)

研究活動を実施し、成果を修士論文としてまとめる。

防災分野における履修科目の一例(履修モデル)を表3に示す。具体的なプロジェクト活動の課題例としては、京都府北部の由良川およびその支流域における内水浸水に対して、地域情報プロジェクト演習I, IIにおいて、局所的な雨量計測を継続しつつ、ハードウェアの改良、計測の蓄積および予測モデルの妥当性の検証を進めていくことが想定される。2年次では、対象流域の地域コミュニティとも協力し、短時間で発生する内水浸水に向けたデータに基づくタイムライン策定などに取り組むことが想定され、その成果を

(17 ページ)

表2. 社会福祉分野の履修モデル

(表2の内容を修正)

(略)

(18 ページ)

***防災分野**

(略)

その成果をまとめる。

(略)

研究活動を実施する。

プロジェクト報告書としてまとめることが考えられる。(資料 15-3 : 履修モデル説明図

防災分野の履修モデル (修士 (学術))

(修士 (情報学) を目指す場合) 同様のプロジェクト活動において、既存の土壌雨量指数などの警報の根拠となる指標値の予測モデルに基づいて、モデルを対象地域の特性に応じた形での適用を目指す場合には、モデルに含まれる特有のパラメータに対するデータ同化手法の研究を行うことなどが考えられる。このような数理的手法の研究では、その成果を修士論文にまとめることとなる。履修モデルとしては、表 3 と異なり 2 年次の研究・プロジェクト科目の選択が地域情報学特別研究 I、II となる違いがあり、成果物としてプロジェクト報告書ではなく修士論文が求められる。(資料 15-4 :

履修モデル説明図 防災分野の履修モデル (修士 (情報学))

(19 ページ)

表 3. 防災分野の履修モデル (修士 (学術) コースの例)

(表 3 の修正内容については後掲)

(略)

(19 ページ)

***医療分野**

(略)

以下の表 4 に示すようなモデルが考えられる。

(略)

医用画像解析特論の他、環境情報技術特論により計測技術を学び、離散数学特論の履修による知的システムの構築法を学んでいく。人工知能を用いる診断支援システムは、地域の特性には依らず、生理学や医学を基本とした科学的機序に基づくシステム

(18 ページ)

表 3. 防災分野の履修モデル

(表 3 の内容を修正)

(略)

(19 ページ)

***医療分野**

(略)

以下のようなモデルが考えられる。

(略)

医用画像解析特論の他、環境情報技術特論により計測技術を学び、計算知能特論、離散数学特論の履修による知的システムの構築法を学んでいく。また、文理融合科目の地域医療情報システム論の履修を通じて、医療提供におけるデータ利用のビジョンを獲得さ

を対象とした科学研究であるが、地域医療における諸課題を地域医療情報システム論の履修を通じて学ぶことで、人工知能をはじめとする情報技術の利活用が地域社会に果たす役割を理解しつつ、このような学術研究を進めることにより、幅広い学びとなることが期待できる。(資料 15-5 : 履修モデル説明図 医療分野の履修モデル (修士 (情報学)))

(20 ページ)

表 4. 医療分野の履修モデル (修士 (情報学) コースの例)

(表 4 の修正内容については後掲)

(20 ページ)

***数理基盤分野**

(略)

また、たとえば医用画像解析特論、環境情報技術特論、

(略)

数理基盤分野における研究テーマ例として、福知山市の長田野工業団地に位置する製造業においても課題となっている生産ラインの最適化に関するテーマをあげる。この分野は、数理科学と情報学の境界領域であり、情報学における専門的な学びからシームレスに大学院における教育研究を通じて学生は専門性を高めていく。修士課程 1 年次では、ハイブリッドダイナミカルシステムと離散数学特論の履修を通じて数理科学を専門的に学び、マルチモーダルインタラクション特論や計算知能特論を通じて人工知能を主とした知能システムの構築に関する技術を学ぶ。また、文理融合科目の履修を通じて、エキスパート人材に求められる総合知を身につけるための足掛かりを得ていく。また、本学の数理・データサイエン

せることが想定される。

2 年次からは地域情報学特別研究 I、II を履修し、人工知能を用いた診断技術を中心にした研究活動を実施することなどが想定される。

(19 ページ)

表 4. 医療分野の履修モデル

(表 4 の内容を修正)

(20 ページ)

数理基盤分野

(略)

また、医用画像解析特論、環境情報技術特論、

(略)

さらに、対象とする社会システム等を記述するモデル化、そのモデルに基づくシミュレーション技法などを指導教員による指導のもと地域情報プロジェクト演習 I、II で習得する。さらに、文理融合科目の習得を通じて、エキスパート人材に要求される総合知への足掛かりを得る。2 年次には、情報学研究コースを選択し、指導教員のもと研究計画に沿って、モデルの解析またはシミュレーションモデルの構築に関する研究あるいは、システム最適化法の研究を行い、その成果を修士論文にまとめる。

スセンターはこれらの研究活動を専門的見地から支援する。2年次では、研究・プロジェクト科目では、地域情報学特別研究Ⅰ，Ⅱを履修し、指導教員による指導のもと研究計画に基づいて研究活動を展開し、成果を修士論文にまとめる。(資料 15-6：履修モデル説明図 数理基盤分野の履修モデル (修士 (情報学)))

(21 ページ)

表 5. 数理基盤分野の履修モデル (修士 (情報学) コースの例)

(表 5 の修正内容については後掲)

(22 ページ)

***実世界データサイエンス分野**

(略)

習得するとともに、ハイブリッドダイナミカルシステムの履修

(略)

課題分野に対応する専門科目、たとえば、環境情報技術特論の履修を通じて、

(略)

併せて、文理融合科目および社会科学系科目の習得を通じて、

(略)

その成果を修士論文にまとめる。この分野の履修モデルの例を表 6 に示す。また、具体的な研究課題として、画像計測による昆虫類の生態把握をとりあげ、その指導や科目履修の流れを資料として与える。(資料 15-7：履修モデル説明図 実世界データサイエンス分野の履修モデル (修士 (情報学)))

表 6. 実世界データサイエンス分野の履修モデル (修士 (情報学) コースの例)

(表 6 の修正内容については後掲)

(20 ページ)

表 5. 数理基盤分野の履修モデル

(表 5 の内容を修正)

(21 ページ)

実世界データサイエンス人材

(略)

習得するとともに、ハイブリッド・ダイナミックシステムの履修

(略)

課題分野に対する。また、実践的社会調査法、医用画像解析特論、環境情報技術特論などの専門科目の履修を通じて、

(略)

併せて、文理融合科目の習得を通じて、

(略)

その成果を修士論文にまとめる。

表 6. 実世界データサイエンスの履修モデル

(表 6 の内容を修正)

<p>(略)</p> <p>(24 ページ)</p> <p>キ 修士学位審査</p> <p>(略)</p> <p>修士学位論文と同様に1名の<u>主査</u>および複数の<u>副査</u>による修士学位審査を行う。<u>主査</u>は原則として提出された報告書の技術的側面に適合する指導教員が担う。<u>副査</u>は、プロジェクトが</p> <p>(略)</p> <p>(25 ページ)</p> <p>⑥特定の課題についての研究成果の審査を行う場合</p> <p>(1) プロジェクト実践報告書について</p> <p>(略)</p> <p>実践的な研究活動を行い、<u>この過程で学んだ情報技術の特性を踏まえて、プロジェクトの成果を社会に還元するための報告書を作成することが要求されている。</u></p> <p>(26 ページ～27 ページ))</p> <p>⑦基礎となる学部との関係</p> <p>(略)</p> <p>学修する。<u>地域経営学科の3つの系は、専門科目の区分を表している。学科に共通の社会科学の基礎科目とそれぞれの系の学びに対応する系の推奨科目の履修により、分野に固有の専門知識を学ぶ体系となっている。系ごとの専門性および地域経営学部医療福祉経営学科の専門性に基づいて、その分野の地域課題を中心にさまざまな地域課題を取り上げ地域協働型の教育研究プログラムが実施されている。情報学部では「人間・社会情報学」「データサイエンス」「ICT」の3つのトラックを通じて情報学の基礎を学ぶ。情報学部のこれら3つのトラックは、いわゆるコース制におけるコースとは性格を異にしたも</u></p>	<p>(略)</p> <p>(23 ページ)</p> <p>キ 修士学位審査</p> <p>(略)</p> <p>修士学位論文と同様に1名の<u>主任審査委員</u>および複数の<u>副審査委員</u>による修士学位審査を行う。<u>主任審査委員</u>は原則として提出された報告書の技術的側面に適合する指導教員が担う。<u>副審査委員</u>は、プロジェクトが</p> <p>(略)</p> <p>(24 ページ)</p> <p>⑥特定の課題についての研究成果の審査を行う場合</p> <p>(1) プロジェクト実践報告書について</p> <p>(略)</p> <p>実践的な研究活動を行い、<u>その成果を社会に還元するための報告書を書くことが要求されている。</u></p> <p>(25 ページ)</p> <p>⑦基礎となる学部との関係</p> <p>(略)</p> <p>学修する。<u>情報学部では「人間・社会情報学」「データサイエンス」「ICT」の3つのトラックを通じて情報学の基礎を学ぶ。</u></p> <p>地域経営学部では</p> <p>(略)</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p> <u>のであり、学生が自身の学びを計画する上での履修モデルを示すためのものである。各トラックには「実践科目」「基盤科目」「理論科目」の категорияが設けられており、トラックに特化した履修モデルに加えて、トラック均等型の履修モデルも提示されている。各トラックには「実践科目」「基盤科目」「理論科目」の категорияが設けられており、トラックに特化した履修モデルに加えて、トラック均等型の履修モデルも提示されている。</u> </p> <p> 地域経営学部では (略) </p>	
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

設置の趣旨等を記載した書類本文中の表の新旧

⑤教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

オ 履修モデル

補正後

表 1. 地域 DX 分野の履修モデル (修士 (学術) コースの例)

科目区分	1 年次		2 年次		学位審査
	前期	後期	前期	後期	
研究・プロジェクト科目	地域情報プロジェクト演習 I	地域情報プロジェクト演習 II	地域情報プロジェクト実践 I	地域情報プロジェクト実践 II	<u>プロジェクト報告書</u>
情報学科目	<u>(リメディアル科目)</u>	実証的ソフトウェア工学	感性情報データ処理特論 <u>人間情報技術特論</u>		
文理融合科目	実践的社会調査法 ベンチャー・アントレプレナーシップ論		<u>サービスエンジニアリング特論</u>		
社会科学系科目		国際文化論 経営学特論			

補正前

表 1. 地域 DX 人材分野の履修モデル

科目区分	1 年次		2 年次		
	前期	後期	前期	後期	
研究・プロジェクト科目	地域情報プロジェクト演習 I	地域情報プロジェクト演習 II	地域情報プロジェクト実践 I	地域情報プロジェクト実践 II	<u>報告書</u>
情報学科目	<u>サービスエンジニアリング特論</u>	実証的ソフトウェア工学	感性情報データ処理特論		
文理融合科目	実践的社会調査法 ベンチャー・アントレプレナーシップ論				
社会科学系科目		国際文化論 経営学特論			

補正後

表 2. 社会福祉分野の履修モデル (修士 (学術) コースの例)

科目区分	1 年次		2 年次		学位審査
	前期	後期	前期	後期	
研究・プロジェクト科目	地域情報プロジェクト演習 I	地域情報プロジェクト演習 II <u>インターンシップ</u>	地域情報プロジェクト実践 I	地域情報プロジェクト実践 II	<u>プロジェクト報告書</u>
情報学科目	(リメディアル科目) 人間情報技術特論	集積システム設計 特論 時系列メディア論			
文理融合科目	実践的社会調査法 <u>感性情報データ処理</u> 特論		サービスエンジニアリング特論		
社会科学系科目		地域福祉政策論			

補正前

表 2. 社会福祉分野の履修モデル

科目区分	1 年次		2 年次		
	前期	後期	前期	後期	
研究・プロジェクト科目	地域情報プロジェクト演習 I	地域情報プロジェクト演習 II	地域情報プロジェクト実践 I	地域情報プロジェクト実践 II	<u>報告書</u>
情報学科目	人間情報技術特論	<u>マルチモーダルインタラクション</u> 特論 集積システム設計特論 時系列メディア論			
文理融合科目	実践的社会調査法		サービスエンジニアリング特論		
社会科学系科目		地域福祉政策論			

補正後

表 3. 防災分野の履修モデル (修士 (学術) コースの例)

科目区分	1 年次		2 年次		学位審査
	前期	後期	前期	後期	
研究・プロジェクト科目	地域情報プロジェクト演習 I	地域情報プロジェクト演習 II	地域情報プロジェクト実践 I	地域情報プロジェクト実践 II	プロジェクト報告書
情報学科目	離散数学特論 ハイブリッドダイナミカルシステム	応用解析学特論	IoT システムハードウェア		
文理融合科目	実践的社会調査法 地域情報学特別講義 I	地域情報学特別講義 II			
社会科学系科目	公共ガバナンス論				

補正前

表 3. 防災分野の履修モデル

科目区分	1 年次		2 年次		報告書
	前期	後期	前期	後期	
研究・プロジェクト科目	地域情報プロジェクト演習 I	地域情報プロジェクト演習 II	地域情報プロジェクト実践 I	地域情報プロジェクト実践 II	報告書
情報学科目	離散数学特論 ハイブリッドダイナミカルシステム	応用解析学特論	IoT システムハードウェア		
文理融合科目	地域情報学特別講義 I	地域情報学特別講義 II			
社会科学系科目	公共ガバナンス論				

補正後

表 4. 医療分野の履修モデル (修士 (情報学) コースの例)

科目区分	1 年次		2 年次		学位審査
	前期	後期	前期	後期	
研究・プロジェクト科目	地域情報プロジェクト演習 I	地域情報プロジェクト演習 II	地域情報学特別研究 I	地域情報学特別研究 II	修士論文
情報学科目	人間情報技術特論	医用画像解析特論 環境情報技術特論	離散数学特論		
文理融合科目	地域情報学特別講義 I	地域情報学特別講義 II 地域医療情報システム論			
社会科学系科目					

補正前

表 4. 医療分野の履修モデル

科目区分	1 年次		2 年次		学位審査
	前期	後期	前期	後期	
研究・プロジェクト科目	地域情報プロジェクト演習 I	地域情報プロジェクト演習 II	地域情報学特別研究 I	地域情報学特別研究 II	修士論文
情報学科目		医用画像解析特論 環境情報技術特論 計算知能特論	離散数学特論		
文理融合科目	地域情報学特別講義 I	地域情報学特別講義 II 地域医療情報システム論			
社会科学系科目					

補正後

表 5. 数理基盤分野の履修モデル (修士 (情報学) コースの例)

科目区分	1 年次		2 年次		学位審査
	前期	後期	前期	後期	
研究・プロジェクト科目	地域情報プロジェクト演習 I	地域情報プロジェクト演習 II	地域情報学特別研究 I	地域情報学特別研究 II	修士論文
情報学科目	離散数学特論 ハイブリッドダイナミカルシステム	マルチモーダルインタラクション特論 計算知能特論			
文理融合科目	地域情報学特別講義 I	地域情報学特別講義 II			
社会科学系科目		経営学特論			

補正前

表 5. 数理基盤分野の履修モデル

科目区分	1 年次		2 年次		学位審査
	前期	後期	前期	後期	
研究・プロジェクト科目	地域情報プロジェクト演習 I	地域情報プロジェクト演習 II	地域情報学特別研究 I	地域情報学特別研究 II	修士論文
情報学科目	離散数学特論 ハイブリッドダイナミカルシステム	マルチモーダルインタラクション特論 計算知能特論			
文理融合科目	地域情報学特別講義 I	地域情報学特別講義 II	実践的社会調査法		
社会科学系科目					

補正後

表 6. 実世界データサイエンス分野の履修モデル (修士 (情報学) コースの例)

科目区分	1 年次		2 年次		学位審査
	前期	後期	前期	後期	
研究・プロジェクト科目	地域情報プロジェクト演習 I	地域情報プロジェクト演習 II	地域情報学特別研究 I	地域情報学特別研究 II	修士論文
情報学科目	離散数学特論 ハイブリッドダイナミカルシステム	環境情報技術特論 計算知能特論			
文理融合科目	地域情報学特別講義 I	地域情報学特別講義 II			
社会科学系科目		国際文化論			

補正前

表 6. 実世界データサイエンスの履修モデル

科目区分	1 年次		2 年次		学位審査
	前期	後期	前期	後期	
研究・プロジェクト科目	地域情報プロジェクト演習 I	地域情報プロジェクト演習 II	地域情報学特別研究 I	地域情報学特別研究 II	修士論文
情報学科目	離散数学特論 ハイブリッドダイナミカルシステム	医用画像解析特論 環境情報技術特論 計算知能特論			
文理融合科目	地域情報学特別講義 I	地域情報学特別講義 II	実践的社会調査法		
社会科学系科目					

資料 15 : 履修モデル説明図の新旧は、次頁以降に記載

(是正事項) 地域情報学研究科 地域情報学専攻 (M)

【学生確保の見通し・人材需要の社会的動向】

2. 「学生の確保の見通し等を記載した書類」の(1)エ「学生確保の見通し」において本学の情報学部及び地域経営学部の2、3年生に対するアンケート調査の結果、本研究科に「進学を希望する」及び「進学を検討する」と回答した者が、3年生は22名、2年生が18名いることを示した上で、進学に前向きな意向を示す者が一定数いることをもって「進学者が安定的に入学する」と説明されている。しかしながら、明確な進学的意思を示した者と考えられる「進学を希望する」と回答した者は、3年生が10名、2年生が4名にとどまっていることに加え、「進学を検討する」と回答した者のうち何名が「進学を希望する」と同程度の見込みとして扱うことができるのかについての客観的な根拠に基づく合理的な説明は見受けられない。また、提携校である舞鶴工業高等専門学校での説明機会を設けること等によって、入学定員の20名を充足できる見込みがあると説明されているが、具体的に何名が先述のアンケート調査における「進学を希望する」と回答した者と同程度の見込みとして扱うことができるのかについて客観的な根拠に基づく合理的な説明は見受けられない。これらのことから、本研究科の入学定員である20名を安定的に満たすことができるとは判断できない。このため、入学定員の設定根拠及び長期的かつ安定的に学生を確保する見込みがあることについて、他大学等からの進学に関する調査の実施やその結果についての適切な分析などを含めて、客観的な根拠と適切な分析に基づき、改めて明確に説明すること。

(対応)

是正事項に示されていた、3年次の時点で「進学を希望する」とした学生数から、入学定員充足を合理的・定量的に説明できていないというご指摘に対し、以下の通り追跡調査・追加調査を実施し、入学定員が充足可能であることを示した。

1. 2023年6月に同一対象者（この時点では4年生および3年生）に対して同じアンケートを実施し、進路に対する意識の変容を追跡調査した。
2. 同時に、1年生および2年生に対して新規にアンケートを実施し、継続的な進学希望者に関する調査を行った。
3. 舞鶴工業高等専門学校に対して、進学状況や今後の進路選択の可能性について対面でインタビューを行った。
4. 同校を含む高等専門学校に対して、今後の本大学院への進学に関するアンケートを新規に実施し、特に次年度以降の進学希望者に関する調査を行った。
5. 北近畿地域の企業からの社会人入学生に関する可能性についてアンケートを行い、継続的な進学希望者に関する調査を行った。

以上の調査の結果、初年度における入学定員の充足については、定員に対し同数程度の「進学を希望する」と回答した学生がいることが分かり、定員充足に十分足る志望者の存在がデータから明らかとなった。高等専門学校からは初年度の入学希望者を得ることは困難である一方、次年度以降については志望者が現れる可能性が示されている。これに加えて、3年生のアンケート結果および、追跡調査における意識変容の傾向を考慮し、次年度についても定員充足に十分足る志望者が現れることを明らかにした。さらに、3年目以降については、学内希望者の状況を表すアンケートに加えて、北近畿地域の諸企業からの社会人入学など、多様な学生を受け入れるための仕組みを構築することでさらなる学生の確保が可能となることがアンケートから明らかになっており、3年目以降についても十分な志望者が確保できることが示唆される結果となった。

これらを踏まえて、補正において以下の改定を行っている。

(新規追加箇所) 学生の確保の見通し等を記載した書類

(5 ページ～13 ページ) 以下の記載を新規追加 (追加部分は全て下線)

ここまで、2022 年度における学生確保の見通しに関する調査結果を示したが、本学では、引き続き 2023 年度当初から、先に述べた入学金免除制度にかかる情報を含め、大学院設置申請書に記載している内容に基づき、本学学部生全学年に対して本研究科の案内を継続的に行ってきた。そのことを踏まえ、学生確保の見通しをより明確に評価するために、「A-2 本学学部生への入学意向の再調査」を、対象を全学年に広げて行った。

それに加えて、本学学部学生の内部進学以外にも学生を確保する可能性があることを示すために、「A-3 高等専門学校への入学意向調査」および「A-4 近隣の企業・事業所・自治体等への入学意向調査」を行った。

A-2 本学学部生への入学意向再調査結果

1 2023 年 6 月 12 日～19 日の間、本学生の全学年を対象としたアンケート調査を各ゼミで実施、同年 6 月 23 日までに回収を依頼した。(資料 2：学生確保の見通しに関するアンケート 2023 年 6 月実施)

2 アンケート実施状況

■アンケート実施実績

4 年生

- ・情報学部 (対象学生：104 名) 回収数 74 件 (回収率 71.2%)
- ・地域経営学部 (対象学生：115 名) 回収数 62 件 (回収率 53.9%)

3 年生

・情報学部（対象学生：98名） 回収数 73 件（回収率 74.5%）

・地域経営学部（対象学生：107名） 回収数 83 件（回収率 77.6%）

2年生

・情報学部（対象学生：102名） 回収数 81 件（回収率 79.4%）

・地域経営学部（対象学生：107名） 回収数 87 件（回収率 81.3%）

1年生

・情報学部（対象学生：105名） 回収数 93 件（回収率 88.6%）

・地域経営学部（対象学生：103名） 回収数 52 件（回収率 50.5%）

■各学部の4年生における入学意向調査結果

問 3. 大学卒業後、大学院修士課程へ進学し、修士の学位を取ることを考えていますか。

学部	取りたいと思う		取ることを検討している		取らないと思う		総計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
情報	24	32.4%	14	18.9%	36	48.7%	74
地域経営	1	1.6%	2	3.2%	59	95.2%	62

問 4. 本研究科への興味・関心はありますか。

学部	興味・関心がある		興味・関心がない		総計
	件数	割合	件数	割合	
情報	50	67.6%	24	32.4%	74
地域経営	11	17.7%	51	82.3%	62

問 5. 本研究科に進学したいと思いますか。

学部	進学を希望する		進学を検討する		将来必要を感じた場合に進学を検討する		進学を希望しない		総計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
情報	19	25.7%	10	13.5%	17	23.0%	28	37.8%	74
地域経営	1	1.6%	0	0.0%	7	11.3%	54	87.1%	62

■各学部の4年生における入学意向調査結果のまとめ

本調査により、本研究科に「進学を希望する」と回答した学生は 20 名（うち情報学部 19 名、地域経営学部 1 名）となり、前回調査における同一対象である 3 年生の「進学を希望する」と回答した学生数 10 名（うち情報学部 10 名、地域経営学部 0 名）から増加し、募集定員の 20 名に届く学生が本研究科を希望していることが明らかとなった。

調査時期における 4 年生は、就職においてもほぼ進路が確定しており、3 年生の時期に「検討する」と回答した学生の一部が本研究科への進学に改めて明確な意思を示したことが回答学生増の第一の理由であると考えられる。そのため、「進学を検討する」と回答

した学生の総数は減少傾向にある（前回調査 12 名、再調査 10 名）。また、本研究科の案内を継続的に実施したことで、大学院を志望した学生が増えたことも理由の一つとしてあげられる。

以上のことから、初年度における定員確保は十分可能であると考えられる。

■各学部 3 年生における入学意向調査結果

問 3. 大学卒業後、大学院修士課程へ進学し、修士の学位を取ることを考えていますか。

学部	取りたいと思う		取ることを検討している		取らないと思う		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
情報	22	30.1%	23	31.5%	28	38.4%	73
地域経営	4	4.8%	8	9.6%	71	85.6%	83

問 4. 本研究科への興味・関心はありますか。

学部	興味・関心がある		興味・関心がない		総計
	人数	割合	人数	割合	
情報	49	67.1%	24	32.9%	73
地域経営	15	18.1%	68	81.9%	83

問 5. 本研究科に進学したいと思いますか。

学部	進学を希望する		進学を検討する		将来必要を感じた場合に進学を検討する		進学を希望しない		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
情報	16	21.9%	11	15.1%	29	39.7%	17	23.3%	73
地域経営	2	2.4%	5	6.0%	13	15.7%	63	75.9%	83

■各学部 2 年生における入学意向調査結果

問 3. 大学卒業後、大学院修士課程へ進学し、修士の学位を取ることを考えていますか。

学部	取りたいと思う		取ることを検討している		取らないと思う		総計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
情報	18	22.2%	30	37.0%	33	40.8%	81
地域経営	0	0.0%	8	9.2%	79	90.8%	87

問 4. 本研究科への興味・関心はありますか。

学部	興味・関心がある		興味・関心がない		総計
	人数	割合	人数	割合	
情報	59	72.8%	22	27.2%	81
地域経営	19	21.8%	68	78.2%	87

問 5. 本研究科に進学したいと思いますか。

学部	進学を希望する		進学を検討する		将来必要を感じた場合に進学を検討する		進学を希望しない		総計
情報	8	9.9%	16	19.8%	43	53.0%	14	17.3%	81
地域経営	0	0.0%	2	2.3%	30	34.5%	55	63.2%	87

■各学部1年生における入学意向調査結果

問 3. 大学卒業後、大学院修士課程へ進学し、修士の学位を取ることを考えていますか。

学部	取りたいと思う		取ることを検討している		取らないと思う		総計
情報	17	18.3%	32	34.4%	44	47.3%	93
地域経営	2	3.8%	6	11.5%	44	84.7%	52

問 4. 本研究科への興味・関心はありますか。

学部	興味・関心がある		興味・関心がない		総計
情報	60	64.5%	33	35.5%	93
地域経営	14	26.9%	38	73.1%	52

問 5. 本研究科に進学したいと思いますか。

学部	進学を希望する		進学を検討する		将来必要を感じた場合に進学を検討する		進学を希望しない		総計
情報	9	9.7%	16	17.2%	52	55.9%	16	17.2%	93
地域経営	0	0.0%	1	1.9%	23	44.2%	28	53.9%	52

■各学部の1～3年生における入学意向調査結果のまとめ

本調査の結果、3年生の情報学部生で本研究科に「進学を希望する」と回答した者が16名（前回調査4名）、「進学を検討する」と回答したものが11名（前回調査14名）となり、前回12月の調査よりも進学に前向きな意思を示す者は増加した。

すでに3年生の段階で進学を前向きに捉えている学生が多いことから、大学院設置後についても学内からの希望者が安定的に入学するものと考えられる。また1・2年生についても現時点で本研究科に「進学を希望する」「進学を検討する」と本研究科の進学に前向きな回答した学生があわせて52名いる。

本年度までに実施した大学院の案内により希望者が増加したことを踏まえると、今後、学部生が大学院生の研究や就職実績等の具体的な成果を目の当たりにすることとなり、

現在よりもさらに大学院が身近なものとなることで、本研究科への入学希望者はさらなる増加が予想されることから、継続的な学生確保は確実であると考えられる。

A-3 高等専門学校への入学意向調査結果

- 2023年6月12日～23日の間、3つの高等専門学校専攻科（舞鶴、和歌山、松江）に対して紙およびGoogleフォームにてアンケート調査を実施、同年6月23日までに回収を依頼した。（資料3：高等専門学校からの学生確保の見通しに関するアンケート）
- 舞鶴工業高等専門学校においては、専攻科の進学状況および進路選定の過程を具体的に理解するために、2023年6月13日に専攻科長および進路指導担当者と面談を行い、詳細を聞き取り調査した。

3 アンケート実施状況

■アンケート実施実績

対象：3 高等専門学校 回収数 42 件

■高等専門学校の各専攻科における入学意向調査結果

問3. 大学卒業後、大学院修士課程へ進学し、修士の学位を取ることを考えていますか。

取りたいと思う		取ることを検討している		取らないと思う		総計
12	28.6%	2	4.8%	28	66.6%	42

問4. 本研究科への興味・関心はありますか。

興味・関心がある		興味・関心がない		総計
9	21.4%	33	78.6%	42

問5. 本研究科に進学したいと思いますか。

進学を希望する		進学を検討する		将来必要を感じた場合に進学を検討する		進学を希望しない		総計
0	0.0%	2	4.8%	9	21.4%	31	73.8%	42

■高等専門学校の各専攻科における入学意向調査結果のまとめ

調査の結果、3校の高等専門学校から本研究科に「進学を希望する」と回答した者はいなかったが、「進学を検討する」と回答した者が2名となった。

舞鶴工業高等専門学校でのインタビューの結果、工業高等専門学校専攻科の学生のうち大学院へ進学を希望する学生は、専攻科1年時に進路選択をする傾向があることが分

かった。また、進学先の選定には学生の自宅近隣地域の大学院を選択する傾向があることも分かった。その際、舞鶴工業高等専門学校専攻科の学生には、年1名程度北近畿地域から進学している学生がいることも分かった。

以上のことから、初年度の学生を確保することは難しいものの、次年度以降、高等専門学校へ早期に案内を行う機会を設けるなど、専攻科1年生への興味喚起を図ることで、北近畿地域に在住する大学院進学希望学生の確保が可能になると考えられる。

A-4 近隣の事業所へのアンケート調査からの入学支援の動向

1 2023年6月9日～23日の間、福知山市近隣の事業所320団体に対してメールまたはFAXによりアンケート調査を実施、同年6月23日までの回答を依頼した。(資料4：福知山公立大学大学院地域情報学研究科に関するアンケート調査)

2 アンケート実施状況

■アンケート実施実績

対象：福知山市近隣の事業所320事業所に送付

送付先の内訳は以下の通りである。

行政関係 北近畿自治体 10市4町

行政関係以外の事業所

福知山市商工会議所等の福知山市内の商工団体を通じた事業所への配布 197

兵庫県北部の商工団体を通じた事業所への配布 109

回収数93団体(回収率29.1%)

■福知山市近隣の企業・事業所・自治体等における入学意向調査結果

Q1. 御社の所在地(人事部門の所在地)を教えてください。

福知山市		舞鶴市、綾部市		宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町		その他京都府内	
41	44.0%	5	5.4%	5	5.4%	2	2.2%
丹波市、丹波篠山市		豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町		その他兵庫県内		その他の地域	
20	21.5%	5	5.4%	3	3.2%	12	12.9%

Q2. 御社の業種を教えてください。(業種分類は「日本標準産業分類」による)

農・林業		鉱業・建設・製造		電気・ガス・水道		情報通信	
1	1.1%	45	48.1%	2	2.2%	0	0.0%
運輸、卸売、小売		金融、保険、不動産		研究開発、専門技術サービス		宿泊、飲食サービス	
10	10.8%	5	5.4%	1	1.1%	2	2.2%
生活関連サービス		教育・学習支援		医療・福祉		公務	
4	4.3%	0	0.0%	6	6.5%	12	12.9%
それ以外 (具体的に)							
5	5.4%						

Q3. 御社の従業員数を教えてください。

10人未満		10人～50人未満		50人～100人未満		100人～300人未満		300人以上	
13	14.0%	18	19.4%	13	14.0%	19	20.4%	30	32.2%

Q4. 御社では社内の情報系人材は確保できていますか

確保できている		ほぼ確保できている		やや不足している		不足している		大いに不足している	
11	11.8%	23	24.7%	29	31.3%	23	24.7%	7	7.5%

Q5. 御社では情報分野における研修や大学等への派遣などによる従業員の学び直し(リカレント、リスキリング)の必要性を感じていますか。

必要である		必要性を感じる		必要性を感じない		総計
13	14.0%	46	49.4%	34	36.6%	93

Q6. 福知山公立大学大学院地域情報学研究科は、情報学の専門知識を学ぶ情報学研究コースと地域情報プロジェクトコースを設け、情報系学部出身者だけでなく情報技術に関心がある社会人にも学びやすいカリキュラムを用意します。

御社では、機会や環境を整えば、従業員に本学地域情報学研究科に現職のまま入学（又は派遣入学）することを推奨されますか。

推奨したい		どちらかといえば推奨したい		推奨しない		わからない		総計
5	5.4%	22	23.7%	25	26.9%	41	44.0%	93

Q7. 前問で「a. 推奨したい」「b. どちらかといえば推奨したい」と回答された事業所にお尋ねします。従業員の派遣または入学はどのような頻度でお考えですか。

毎年入学させたい		2～3年に一度程度入学させたい		5年に一度程度入学させたい		わからない		総計
2	7.4%	4	14.8%	6	22.2%	15	55.6%	27

■近隣の事業所におけるアンケート調査結果のまとめ

本調査の結果、本研究科に対して現職のまま入学をすることを推奨する団体が約 30% となり、本研究科入学に対する意思は高いといえる。また入学の頻度については「毎年入学させたい」と回答したのが 2 団体、「2～3年に一度程度入学させたい」と回答したのは 4 団体、「5年に一度程度入学させたい」と回答したのは 6 団体となり、近隣企業等から毎年 2～3 名程度は入学の意志があることが確認できた。

A-5 学生確保の見込み

今回、学生確保の見込みをより明確にすることを目的に、A-2 本学の学部生（2 学部全学年 841 名）、A-3 高等専門学生（3 校 4 専攻科）、A-4 近隣の企業・事業所・自治体等（320 団体）に対して入学の意識を確認するためのアンケート調査を行った。

初年度において、募集定員 20 名に対して、同数程度は本学内で入学を希望する者の意思が確認できている。また既に本研究科を希望する 3 年生以下の学生が一定数存在していることや、近隣企業等から、将来的に社会人等の受け入れ体制を整備することにより、例年 2～3 名程度の学生が確保できる見込みであることから、初年度のみならず今後も安定的に募集人員を充足できる見込みがあるといえる。

今後、特に高等専門学校に対して、大学院の研究内容や研究実績を含む大学院に関する情報を早期に広報し、本学への入学の意志をさらに醸成するなどの対策を進めることで、

本学内外の学生の確保を目指す。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

新	旧
<p>(3 ページ)</p> <p>A-1 学生確保の見通しの調査結果</p>	<p>(3 ページ)</p> <p>A 学生確保の見通しの調査結果</p>
<p>(13 ページ)</p> <p>B 同系統分野の動向</p> <p>(略)</p> <p><u>約 25%超であること、本学情報学部生への進学希望に対するアンケート結果が次年度希望者について 25%程度であることを踏まえると、大学院への進学率は同系統の分野と比して同等かわずかに少ない程度であり、今後の大学院進学にかかる広報活動を丁寧に実施することで、引き続き</u></p> <p>(略)</p>	<p>(5 ページ)</p> <p>B 同系統分野の動向</p> <p>(略)</p> <p><u>約 25%超であることから、本学情報学部生はアンケート時点では 10%であるが、最終的な大学院進学率については上昇する可能性が高く、その中で引き続き</u></p> <p>(略)</p>
<p>(13 ページ)</p> <p>C 長期的な全国的、地域的動向</p> <p>(略)</p> <p><u>アンケート調査 (前述の A-4 および後述) においても学修意欲や人材需要は高いと言</u> <u>える状況</u></p> <p>(略)</p>	<p>(5 ページ)</p> <p>C 長期的な全国的、地域的動向</p> <p>(略)</p> <p><u>アンケート調査 (後述) においても人材需</u> <u>要は高いと言える状況</u></p> <p>(略)</p>
<p>(14 ページ)</p> <p>オ 学生確保に向けた具体的な取り組み</p> <p>(略)</p> <p><u>舞鶴工業高等専門学校や近隣企業、自治体等</u> <u>に配布する他、</u></p> <p>(略)</p>	<p>(6 ページ)</p> <p>オ 学生確保に向けた具体的な取り組み</p> <p>(略)</p> <p><u>舞鶴工業高等専門学校や企業、自治体等に</u> <u>配布する他、</u></p> <p>(略)</p>